

【3歳児 7月の事例】

おもしろそうと興味をもったことを遊びにしてい

「影がいっぱいで、楽しいね」

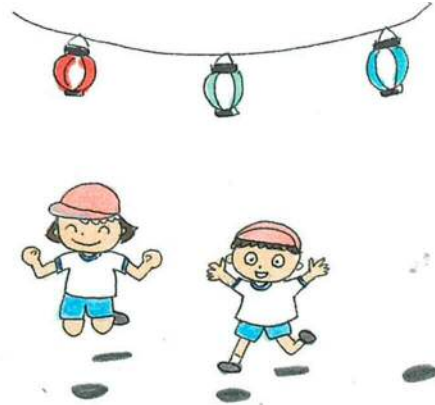
① 明日は、園の夏まつり。朝から保育者たちは、園庭の上にロープを何本も張り、カラフルなちょうちんをたくさんつるした。1階の保育室からその様子を見上げていたA児とB児は「きれいだね」「すごいね」とつぶやいた。

しばらくして、園庭に遊びに出てきたA児は「あっ、まるがいっぱい」と声をあげた。地面にくっきりとできたちょうちんの影を見つけて、A児は両足で影を踏み遊び始めた。

② 保育者が「先生もやっていいかな」と声をかけると、A児は「いいよ」と答えた。それを見ていたB児とC児も近づいてきて、A児に続いてピョンピョン、ピョンピョンと丸い影の上を次々に跳んで遊んだ。保育者はA児たちと一緒に丸い影を踏みながら「1・2・3・・・」と数えた。

③ すると、A児、B児も数えながら影踏みをした。

保育者が、「あっ、あっちにもちょうちんの影があるね」と言うと、C児は「ぼく、あっちも跳んでくる。先生も数えて」と保育者の手をとってかけ出し、数を数えながら影踏みをして遊んだ。影を踏みながらA児は「影がいっぱいで、楽しいね」と言った。



幼児の姿から『学びに向かう力』を読み取ると…

【自然現象への関心】

①園庭のちょうちんの丸い影に興味をもち、影踏みをして遊んだ。

【好奇心】

②友達のしていることを面白そうに思い、保育者や友達と一緒に同じように遊んだ。

【数量・図形への関心】

③保育者と一緒に、丸いちょうちんの影を数えて、いっぱいあることを楽しんだ。

【親しみ、安心感】

③保育者の手をとってかけ出し、数を数えながら影踏みをして遊んだ。

学びに向かう力

自分の気持ちを調整する力

粘り強く
取り組んだり
挑戦したりする力

仲間と協調する力

学びに向かう力を育むための手立て

環境の構成のポイント

「幼児の心を動かす、いつもと違う環境も大切にしましょう」

- いつもと違う環境は、何だろう、面白そう、と幼児の心をわくわくさせます。そして、幼児は、その環境を今まで経験した遊びの中に取り込んで遊ぼうとします。

保育の中には、幼児が大好きな遊具で思う存分遊び安心できる環境と共に、「いつもと違う、何だろう?」「面白そう」と幼児の心を動かす環境も大切です。



保育者の関わりのポイント

「幼児が自然現象と関わる機会を逃さないように、遊びに取り込んでいくようにしましょう」

- 偶然できた影、水たまりや氷、風、雲、虹や雪など幼児の身近なところには、様々な自然現象があります。保育の現場で、それらに出合う経験は幼児の心に豊かな感性や好奇心を育みます。幼児がそれらに気づき、遊びに取り込んでいくよう、保育者自身が感動したり幼児の気づきに共感したりします。時には、遊びを中断して、虹や雪、雲などに気付かせて関わらせていくことも大切です。

家庭での関わりのポイント

「何気ない遊びの中で、幼児は多くのことを学んでいます。そのことを見守っていきましょう」



- 何気ない影踏み遊びですが、この中で、面白そうと感じて遊び出す意欲や、リズムカルに体を動かすことや、数を数えようと興味をもつことなど多くのことを学び取っています。
- 自分から面白そうと思って遊び始めたことは些細なことでも、幼児が生み出した大切な遊びです。幼児が面白いと感じていることに共感し、一緒に遊んだり見守ったりしましょう。大人の支えが、幼児の物事に粘り強く取り組む力を育てます。